

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

平成 30 年 9 月号



【海草振興局】9/7 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】  
「海南・下津農業の将来を考える集い」を開催しました！

和歌山県農林水産部経営支援課  
(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

頁数

<b>I 海草振興局</b>	<b>1 - 2</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～「海南・下津農業の将来を考える集い」を開催しました！～	
2. 新規就農者研修会（果樹＋鳥獣害対策コース）を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3</b>
1. いちご花芽検鏡の実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>4 - 5</b>
1. チャイナフェスティバル2018で特産柿PR	
2. 柿果実肥大調査	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6 - 8</b>
1. 鳥獣対策ならびに温州みかんの仕上げ摘果の研修を開催！	
2. 有田川町4Hクラブ員が小学生に農業の楽しさを伝授	
3. 有田みかんデータベース20周年を記念して	
4. 有田地方環境保全型農業研究会が研修会を開催！	
<b>V 日高振興局</b>	<b>9 - 10</b>
1. みなべ町内の梅料理研究グループが梅料理新レシピ本を製作中	
2. 日高川町新果樹研究会が勉強会を開催	

## **Ⅵ 西牟婁振興局**

**11-12**

1. 西牟婁地方農業士会女性部会第1回OB交流会を開催
2. 中辺路町生活研究グループ連絡協議会が料理研修会を開催

## **Ⅶ 東牟婁振興局**

**13**

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】  
～イチゴ花芽検鏡研修（第4回セミナー）を開催～

## **Ⅷ 農林大学校 就農支援センター**

**14**

1. 平成30年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第2班）開講
2. 平成30年度技術習得研修（第1班）が修了

# I 海草振興局

## 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

### ～「海南・下津農業の将来を考える集い」を開催しました！～

下津町農業士会（会長：稲田充弘）では、下津地域全体として農業をつなぐための取組を考えるきっかけが必要であるとの思いから、「海南・下津農業の将来を考える集い」を同じ市内の海南市農業士会（会長：笹尾拓司）との合同企画として9月7日に開催した。農業者やJA職員、行政職員など合計100名が参加した。

内容としては、農業に必要な頭、膝、腰などを健康に保つための体操教室、楽しく農業に取り組むための女性用農作業着のファッションショー、ゆっくり語り合えるオープンCafé、そしてメインイベントである勉強会&グループディスカッション「産地の将来を考えよう♪」を実施した。

勉強会&グループディスカッションでは、和歌山大学食農総合研究所特任教授である辻和良氏から「みかん産地維持発展の取組について」と題して、先進事例をもとに話題提供いただき、その後、年代別の8グループに分かれて「農業を継げるような環境とは」「労働力を確保するために」などをテーマに意見交換を行った。各グループ代表者からの発表も行い、それぞれの世代で興味をもっていることや地域の課題とされていること等を共有した。

参加者からは、「産地のことや農業のことを改めて考え、話し合える貴重な機会だった」「同世代で話し合えてよかった」「今後もこんな機会があるといい」など前向きな感想が得られた。

主催した農業士からも「農業士会としては初めての取組だったが、やってみてよかった」「農業士ならではの活動ができたと思う」との声があり、9月21日に開催された役員会では今後も内容や方法を検討しつつ、継続していく方向に決定した。

今後、農業士会では全体会議を開催し、結果をもとに地域で取り組むべき課題等について、話し合いを行う予定である。また、農業水産振興課では、この取組を支援する形で立ち上げている『下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム』（構成員：農業者、JA、海南市、海草振興局）を中心に、先進地調査等による実践方法の検討や目指すべき将来ビジョンの作成などに取り組んでいく。

The flyer is titled "農業に関わるみなさん、集い、語りましょう！" and "『海南・下津農業の将来を考える集い』を開催します！". It features a central graphic with the text "Save & Love the 海南・下津" and "持続する産地を自覚して". The event details are as follows:

- 日時: 平成30年9月7日(金) 10時～15時
- 場所: 海南市市民センター 海南市海南町1-1-1
- 主催: 下津町農業士会

The flyer is divided into several sections:

- 産地の将来を考えよう♪**: A discussion session titled "みかん産地維持発展の取組について" led by Professor Wajirami Kazuyuki from Waseda University. It includes a pre-event exchange and a year-specific discussion.
- 農業を楽しく♪魅力を再発見**: A session to rediscover the joy and charm of agriculture, featuring a fashion show for women's work clothes, a product introduction, and a free link for a field visit.
- 健康に楽しく農業を続けるために♪**: A session on maintaining health while working in agriculture, including a Q&A session with a physical therapist.

### 開催概要：PR用の配布物より



グループディスカッション



女性用作業着ファッションショー

## 2. 新規就農者研修会(果樹+鳥獣害対策コース)を開催

農業水産振興課は、就農してから1年目～5年目までの農業者を主な対象とした新規就農者研修会を9月14日に開催した。この研修会は、新規就農者が地域の先輩農業者や他地域農業者と交流し、農業技術や経営、販売面での先進的な取り組みや特徴的農業経営を学び、人脈を構築することにより、今後の農業経営を考える上での知見を深めることを目的として開催している。

今回は、海南市・紀美野町から5名の参加があり、海南市下津町の森岡利行氏（地域農業士）のみかん・キウイ園地にて現地研修を行った。森岡氏は急傾斜地で果樹を栽培しているが、園内道を自ら整備する等、作業効率をあげるための工夫をしている。参加者からは、整備するまでの期間がどれくらいかかったかなどの質問があった。

続いて、JAながみねしもつ営農生活センターに移動し、野生獣類の被害対策基礎知識と題して、果樹試験場の西村副主査研究員からイノシシやシカの生態や被害対策についての説明を受けた。講演後の質疑応答の時間は、柵設置について補助を充実させてほしいという意見や、山のイノシシは非加害群であり、里のイノシシが加害群であるため、加害群を捕獲対象とすることが大切だと初めて知ったという感想があった。

当課では、今年度中に、野菜コースと経営コースの研修会を予定している。。



現地研修会



鳥獣害対策研修



## Ⅱ 那賀振興局

### 1. いちご花芽検鏡の実施

8月30日から9月21日にかけて、JA紀の里打田支所ふるさとセンターにおいて、那賀地方いちご生産組合連合会（会長：中村昌司）主催でいちごの花芽検鏡を計6回実施した。

会員が持ち込んだいちごの苗をJA紀の里の営農指導員並びに農業水産振興課の職員で、顕微鏡を用いて花芽の分化状況を確認した。今回は、272株のいちご苗の花芽検鏡を行った。

9月前半までは、夜冷育苗及び間欠冷蔵処理を行った早期定植用ポット苗、9月中旬以降は通常定植用のポット苗の検鏡を行った。

本年は、8月中旬以降も気温が比較的高く推移していたため、花芽分化の遅れが心配された。

検鏡の結果、前半の夜冷等処理したポット苗では順調に花芽分化が進んでいたが、9月中旬以降に定植を予定しているポット苗では、花芽分化にばらつきが見られた。

花芽が未分化の状態ですら定植をした場合、開花が遅れたり開花時期がばらつくことで収量に大きな影響を及ぼすことから、今回の花芽検鏡結果を基に会員それぞれに対して、定植時期の指導を行った。



いちごの花芽検鏡

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. チャイナフェスティバル2018で特産柿PR

伊都地方3市町農産物消費拡大協議会（会長：木原達夫紀北川上農業協同組合販売部長）は、中国への生柿輸出に向けた気運醸成のため、9月8日～9日に代々木公園イベント広場（東京都）で開催されたチャイナフェスティバル2018に出展し、伊都地域の生柿や柿加工品の販売とPRを行った。

3市町協議会は、JA紀北かわかみ、橋本市、かつらぎ町、九度山町、県で構成された国内外に向けたPR活動や各種イベントへの参加により、新たな販路開拓と農業所得の向上を目的に活動している。

2日間のイベントには約15万人の来場者（主催者発表）があり、生柿を試食した殆どの方から「美味しい」「甘い、どこの柿？」といった声が聞かれるなど非常に好評であった。

また、加工品の販売では「幸村茶（九度山町）」や「あんぼ柿（JA）」の人气が高く、特に「スカッと柿酢（JA）」は試飲により飲みやすさを実感して購入される方が多かった。

生柿の販売は9月上旬という時期もあり、「値段が高い」、「時期的に早い」などの声も聞かれたが、国内外消費者に和歌山の柿PRに繋げる良い機会だった。

今後、協議会ではイベントで得た経験や意見を整理して次年度の取組に活かしていく。



開会式



アグネスチャン 挨拶



3市町協会ブース



飲食ブース



## 2. 柿果実肥大調査

農業水産振興課では管内の柿の生育状況を把握するために、「中谷早生」、「刀根早生」、「平核無」、「富有」の肥大調査を紀の川の北岸と南岸の各2園地で、7月から収穫まで半月ごとに実施している。また、管内の生産者への情報提供のために伊都振興局のホームページにおいて肥大状況の報告を実施している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130300/20/21/seiiku/d00155597.html>)

9月14日に、柿果実の肥大調査を実施した。本年度の「刀根早生」の果実肥大調査は最終となる。本年度の柿果実の肥大は開花時期が早かったことから、初期肥大は良好であったものの、夏期に乾燥が続き成長が抑制される傾向がみられ、「刀根早生」の果実肥大は昨年よりも3.2mm、平年（過去5年の平均値）よりも1.6mm大きい76.2mmで当初の予想よりやや小さかった。

当課では、今後も肥大調査を継続し、柿生育の状況や年次間差を把握し、農家指導に役立てていきたい。



柿果実肥大状況調査

## IV 有田振興局

### 1. 鳥獣害対策ならびに温州みかんの仕上げ摘果の研修を開催！

農業水産振興課は、9月12日、振興局3階大会議室において、「平成30年度有田農業女子プロジェクト第2回研修会」および「アグリビギナー等技術経営研修会」を開催した。

農業女子プロジェクトは、普段あまり交わりのない農業女子同士が交流することで、知り合いの輪を広げるとともに、農業についての知識や技術を身につけるきっかけをつくること、アグリビギナー研修は、就農して間もない農業者の知識や技術の習得を支援し、担い手としての定着を促進することを目的に実施している。

今回、全国で問題となっている「鳥獣による農作物被害」は農業女子と新規就農者の共通の課題ということで、鳥獣害対策に関する研修会を共同開催した。農業女子12名及び女性の農業士4名、新規就農者等5名の出席があった。

果樹試験場の西村副主査研究員より、適切な柵の設置方法や効率的な捕獲方法、放置果実が餌付けとなる事実等、個々で気をつける点、地域ぐるみの対策が必要な点についての詳細な解説、当課の森本主査から、捕獲に当たって必要な手続き等についての説明があり、参加者からサルへの追い払いで紹介のあった打ち上げ花火の取扱の質問が出た。

終了後、アグリビギナーには仕上げ摘果研修として、上山普及指導員から仕上げ摘果のほか、果皮障害軽減対策や施肥を含めた今後の栽培管理に関する説明を行い、元指導農業士の総田至氏（有田市）の園地で摘果の実習を行った。

参加者からは、着果量の多い樹を適正な葉果比にするためには、かなり摘果しなければならないことを実感したという意見が出た。

また、有田農業女子プロジェクトでは、研修会の前に、ランチ交流会を開催し、子育てとの両立等について意見交換を行い、同世代の女性農業者と話すことができ、参考になったとの意見が寄せられた。

今後、農業女子については、他の地域との交流会を、アグリビギナーについては、簿記記帳等の経営に関すること、剪定や苗木の植付に関する研修を予定している。



鳥獣害対策研修



温州みかん仕上げ摘果研修  
(アグリビギナー)

## 2. 有田川町4Hクラブ員が小学生に農業の楽しさを伝授

9月10日、有田川町（旧金屋町）の鳥屋城小学校3年生（33名）を対象に、有田川町4Hクラブ（会長：林孝憲）の亀井勇希氏と小澤佑哉氏が地域の特産物であるみかん栽培の楽しさを伝えるためにみかんの授業を実施した。

地域の後継者不足を憂う亀井氏より「小学生の頃から農業を知ってもらうことが後継者育成に重要と考えており、母校である鳥屋城小学校での農業教育に取り組みたい」との相談を受け、農業水産振興課と有田川町役場が連携し、鳥屋城小学校の賛同を得て、授業実施に至った。

みかんの一年間の作業、おいしいみかんの見分け方の説明のほか、糖度の測定、空調服の試着など、体験を交えた参加型の授業を行った。特に空調服の試着は、じゃんけんによって人数を制限しなければならないほど、生徒の反応は良かった。

今後、収穫体験や選果場見学を実施する予定でみかんに関心を持つ子供達が増えることを期待している。



緊張の中、自己紹介



空調服を試着して、記念撮影

## 3. 有田みかんデータベース20周年を記念して

パソコンを農具として有効活用する事を目的として活動している『有田ネット21』は、本年11月に有田みかんデータベース（有田みかんの情報提供を行うホームページ）が20周年を迎えるのを受け、創設者である元和歌山県職員の佐々木茂明氏（現：株式会社 Citrus 代表取締役）を講師に迎え、9月18日に研修会を開催した。

平成10年1月に和歌山県において第10回全国農業情報ネットワーク大会が開催され、農家の間でインターネットへの関心が深まり、関係機関に対して農業の情報化への取組に関する要望が高まる中、当時、有田農業改良普及センターに勤務していた佐々木氏が、県の新規事業を活用し、有田みかんデータベースを立ち上げた。佐々木氏はみかん栽培において重要な要素である雨量を農家が容易に把握できるよう、県砂防課が県内各地で計測している雨量データを用い、時間雨量を自動的に積算する「雨量データベース」など、農家の要望に応じてインターネット環境で農家が自主的に利用できるツールを次々と開発した。

研修会では、ホームページ立ち上げのみならず、トレーサビリティ、GAPなど今後の農業のあり方にまで話は発展した。有田ネット21の会員の中にもホームページ立ち上げから

携わっている参加者がおり、思い出話に花を咲かせていた。

当課では今後も農家の声を聴きながら、有田みかんデータベースの充実に努める。



佐々木氏による講演



有田みかんデータベース開発  
の経緯について解説

#### 4. 有田地方環境保全型農業研究会が研修会を開催！

9月26日、果樹試験場にて、有田地方環境保全型農業研究会（会長：池田義行）が研修会を開催し、会員ら合わせて30名が参加した。

最初に、池田会長より前回の研修会で行われた会員へのアンケートの集計結果が発表された。次に県庁果樹園芸課の上野山主任より、極早生みかん「YN26」の販売に際する「紀のゆらら」（商標）の名称使用について説明があった。また、果樹試験場栽培部の鯨部長より今年のみかんの樹体状況と今後の対策について講演が行われ、農業水産振興課の上山普及指導員より今年のみかんの肥大・品質調査の状況と台風21号の被害状況について情報提供を行った。

その後、アリスライフサイエンス株式会社マーケティング部プロダクトマネージャーの光畑雅宏氏より、「IPMってなあに？」と題した講演が行われた。様々な防除方法を組み合わせて行う病害虫防除手法のIPM（総合的病害虫管理）の概要や、全国各地でのIPMの使用例、取り組み方などについて説明があった。

会員らは熱心に聴講し、特に光畑氏の講演では「IPMを利用して、カンキツの害虫であるゴマダラカミキリムシやミカンナガタムシはどのように防除すればよいか」など、積極的に質問が行われた。

今後も、当課では環境保全型農業を推進するため、当会の支援を行っていく。



アンケート結果の発表



光畑雅宏氏による講演



## V 日高振興局

### 1. みなべ町内の梅料理研究グループが梅料理新レシピ本を製作中

みなべ町うめ課では、みなべ町梅料理研究会の協力を得て、平成元年に梅料理本を作成し、これまで町内外でのPR活動に活用してきた。

今回、さらに梅の消費拡大を図るため、地域の人や若い主婦（夫）が簡単にできる梅料理レシピを開発し、世界農業遺産であるみなべ・田辺の梅システムや梅の機能性等の魅力を発信するためのレシピ本を製作している。

梅料理の開発や消費拡大、食育などに取り組んでいる町内の梅料理研究グループ7団体と、梅・梅酢を使った料理に造詣が深く、フードスタイリストとして活躍している飯島奈美氏とが協力して、レシピ開発するため、5月には意見交換会を開催し、8月には各グループから55品のレシピ案を飯島氏へ提出していた。

9月10日、レシピ案のうち36品を各グループが試作して持ち寄り、試食会を開催し、このうち農業振興協議会（会長：木下登吉男）では、11品を提供した。試食会では、各グループに飯島氏を交えて、各料理の味やレシピについて意見交換し、製作するレシピ本のデザインについても話し合った。

今後、掲載する料理30～40品を選定し、10月に料理撮影、12月にレシピ本を完成する予定であり、その後、東京でマスコミ向けの発表会を1月に、地元で飯島氏の講演会と合わせた発表会を2月に開催する予定である。

農業水産振興課では、今後とも関係団体によるレシピ本の活用・普及活動を通じた、町内外における梅の消費拡大・食育活動を支援する。

※ 町内梅料理研究グループ・・・梅料理研究会、農業振興協議会、南部川生活研究グループ、受領梅遊びグループ、プラムkitchen、JA紀州梅愛隊、南部高校の7団体



関係団体が36品目を持ち寄り試食



各料理の味やレシピについて意見交換



## 2. 日高川町新果樹研究会が勉強会を開催

日高川町新果樹研究会（会長：川越安信）は9月12日、13日にロイヤルインダストリーズ株式会社の瀬片元治技術部長を招き、有田および日高地域のカンキツ園現地で勉強会を開催した。

初日は有田地域で、海藻エキスを原料とするケルパックなどの専用液肥を活用した不知火栽培園を巡回し、瀬方氏から肥料の効果や施用時期について、園主から栽培管理についての説明を聞いた。その後、日高川町の会員の園地へ移動し、同じく専用液肥を活用して栽培する3年生田口早生の幼木樹の状態を観察し、瀬方氏や園主から肥培管理の説明を聞いた。会員からは、「不知火収穫時のサイズや反収は?」、「施肥の濃度や回数?」など質問があり、会員相互で情報交換を行った。

また、台風21号の通過直後での開催でもあったため、農業水産振興課から被害園地における摘果や防除・保護、施肥による樹勢回復対策について説明を行った。本研究会での勉強会は今後も実施していく予定である。



不知火栽培園で説明を行う瀬片氏と園主



専用液肥で肥培管理を行った3年生田口早生

## VI 西牟婁振興局

### 1. 西牟婁地方農業士会女性部会第1回OB交流会を開催

9月20日、銀ちろ塔の内店（田辺市）において、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：抜田佐代、会員13名）（以下、女性部会）主催による西牟婁地方女性農業士OB会（代表：津軽貞子、会員19名）との交流会を開催し、27名が出席した。

交流会では、それぞれ自己紹介の後、女性部会の山添副部長から昨年度の女性部会の活動内容について報告が行われ、今後、OB会と共同で活動できる内容等について、意見交換を行った。

OB会員からは「今後もこのような交流会を開催したい」、「各会員の園地見学をしては」、「料理交流会、味交換会的なことをしたい」、「民泊体験をしたい」等の意見が出され、活発な意見交換が行われた。

また、農業水産振興課の稲葉技師、明渡技師から若手普及員の活動内容などを掲載した「若手普及員通信」第1号（不定期発行）の紹介を行い、自分たちが担当している業務内容を中心に説明した。

今後も今回出された意見をもとに、OB会と連携した活動を積極的に行っていく予定である。



女性部会の活動内容報告



集合写真

## 2. 中辺路町生活研究グループ連絡協議会が料理研修会を開催

9月28日、中辺路コミュニティセンターで中辺路町生活研究グループ連絡協議会(会長:森川敏子)が、大豆の加工法をグループ員に広めることを目的に料理研修会を開催し、6名が出席した。

当グループは、5月に先進地視察研修として三重県の「農業法人せいわの里まめや」にて、大豆の加工法について講習を受けた。今回の料理研修会では、三重県の先進地視察研修に参加したグループ員が講師となり、豆腐、ひろうす、おからドーナツ、梅ごはん、豆乳味噌汁を調理した。

田辺・西牟婁地域では、大豆の加工品として主に味噌や金山寺味噌などが作られている。当グループでは、毎年、金山寺味噌づくりを行う会員はいるが、豆腐づくりの経験が少なく、新しい大豆加工法の情報を今回の研修会で共有することができた。

参加者からは、「豆腐を手作りすると大豆の味が濃く感じる」、「おからドーナツの口当たりが軽くて食べやすい」、「ひろうすに鶏ミンチ肉を入れたが、うま味が強くなって美味しい」などの感想が出された。

大豆の新たな加工法について、より知識が深まるとともに、新たなレシピ作りについて考えるきっかけとなった。



料理講習



(左上) 豆腐、(右上) 豆乳味噌汁  
(左下) 梅ごはん、(右下) ひろうす

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】

#### ～イチゴ花芽検鏡研修（第4回セミナー）を実施～

9月19日に那智勝浦町苺生産組合(会長:杉浦 仁)は、イチゴの花芽検鏡研修会(第4回イチゴセミナー)を開催し、生産者4名(内新規農業者2名)、JAみくまの職員1名、農業水産振興課2名が参加した。

イチゴの花芽検鏡は、定植前に花芽の分化具合を確認することで定植時期の決定や、出蕾、開花、収穫時期の予想するための重要な作業である。

当日は、当課職員から花芽検鏡の必要性と方法について説明を行った後、生産者が自ら栽培した「まりひめ」の苗を用いて花芽検鏡の実習を行った。

参加した生産者からは、「検鏡の大切さが分かった」、「自分で花芽分化を見られるようになりたい」などの感想があり、有意義な研修となった。

また花芽検鏡の結果、今年の分化は遅れていたことから、分化ステージに応じて生産者ごとに適期定植について指導を行った。

当課では、関係機関と連携しながら、栽培技術の向上や新規就農者の育成など、当組合の活動を支援していく。



花芽検鏡の実習



## Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

### 1. 平成 30 年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース(第 2 班)開講

9 月 1 日、ウイークエンド農業塾農業入門コース（第 2 班）がスタートした。

本研修では 7 名が受講し、研修生は週末を利用して 10 月 28 日までの計 10 日間、農業の初歩的な知識や技術などを学んでいく。

開講初日は、「和歌山県農業の概要」と「品種・播種・育苗」の講義を行った後、農機具の取扱やイチゴ育苗管理およびナス・オクラ収穫の実習を実施した。

10 月には梅の剪定やニンニクの定植などの実習と一年草の栽培やブルーベリーの栽培などの講義が行われる予定である。



ナスの収穫実習



管理機を使った耕うん実習

### 2. 平成 30 年度技術修得研修(第 1 班)が修了

9 月 14 日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第 1 班）の営農設計発表会及び閉講式を開催した。

営農設計発表会では、5 月から 9 月までの計 25 日間、講義や実習を通じて学んだことを踏まえ、自らの 3 年後、5 年後を見据えた営農プランを発表し、意見交換を行った。研修生一人一人が生き生きと発表を行う姿からは、目標に向けて頑張っていこうという思いが伝わってきた。閉講式では、10 名に修了証書が手渡された。当センターでは、修了生が目指す農業経営の実現に邁進されることを願っている。



営農設計の発表



修了証書の授与



### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489